

## 令和3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	自治公民館事業	担当課	市民協働推進課	
総合計画	政策	みんなで築くまち	計画期間	平成4年度～
	施策	地域コミュニティの充実	種別	任意の事務
	基本事業	コミュニティ活動の活性化と環境づくり	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-020702-08 単独	根拠法令・条例等	守谷市自治公民館建設補助に関する規則 守谷市空き家等活用コミュニティ推進事業助成金交付要綱 他	

## なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>平成4年に地域住民の交流及び地域づくりの推進のため、自治公民館の建設、修繕等に係る費用を助成する事業を開始した。平成21年に地域社会の活性化を図るため、空き家等を活用したコミュニティサロンの開設支援事業を開始し、令和2年から空き家等の借上げに要する費用の一部を自己負担いただく事業に変更した。</p> <p>令和2年から自治会・町内会等の場づくりの支援ため、一時的に近隣の自治公民館等の使用料の助成事業を開始した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治公民館を持っている自治会・町内会に対しては、新改築・増築や修繕の申請を前年度の7月末までに提出いただき、内容を審査し翌年4月に補助金交付決定を行う。工事完了後に実績報告書を市に提出いただき、竣工検査を実施して補助金を交付する。補助率は補助対象事業費の1/2である。</li> <li>自治公民館を持たない自治会・町内会に対しては、地域住民の交流の場となるコミュニティサロンを開設するために、空き家等の借上げに要する経費の95%を自治会に助成する（上限月額95,000円）。</li> <li>地域活動の活性化のために一時的に近隣の自治公民館や民家、店舗等の施設を使用する経費の95%（1回上限1,900円）を助成する。</li> </ul>
<p>目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）</p> <p>地域住民の交流や地域づくりの推進の場となる自治公民館の新改築・増築や修繕に対し補助金を交付し、地域住民の自主的な活動を促進する。また、自治公民館を持たない自治会・町内会等に対しては、空き家等を活用するに当たり、借り上げ料や使用料を支援することで地域活動の活性化を図る。</p>	
<p>（参考）基本事業の目指す姿</p> <p>市民主体のコミュニティ活動を行いやすくする活動基盤を整える。</p>	

## 事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ活動の拠点の支援として、自治公民館建設補助（建設費・修繕費の50%補助）、空き家等活用コミュニティ推進事業助成金（家賃月額95%助成）、地域活動のための施設等使用料助成金（使用料95%助成）の3つの制度を運用している。</li> <li>地域活動のための施設等使用料助成金は、助成上限額（1回につき1,900円）を設定しているが、1回の使用料が高額な施設等を借り上げる際は団体の自己負担額が大きくなってしまふ。</li> <li>新型コロナウイルスの影響で、コミュニティ活動が縮小傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年上半年 制度活用状況の取りまとめ</li> <li>令和3年下半年 各団体の自己負担額の分析、（必要に応じて）要綱の改正</li> </ul>
<p>改善内容（課題解決に向けた解決策）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、地域活動のための施設等使用料助成金の助成上限額の再検討をする。</li> </ul>	
<p>次年度のコストの方向性（→その理由）</p> <p><input type="checkbox"/>増加 <input type="checkbox"/>維持 <input type="checkbox"/>削減</p>	

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度を取組（評価、課題への対応）
<ul style="list-style-type: none"> <li>自治公民館建設補助事業は、自治会・町内会等からの申請に基づくものであるため、件数及び補助金に増減はあるが、申請に対して概ね補助ができています。</li> <li>空き家等活用コミュニティ推進事業は、令和2年9月以降、空き家等の賃料の一部負担を自治会・町内会等に求める空き家等活用コミュニティ推進事業助成金に移行した。</li> <li>地域活動のための施設等使用料助成金を新設し、自治公民館を持たない団体が気軽に集まることが出来るように支援した。</li> </ul>	<p>自治公民館建設補助事業は、3地区の自治公民館の修繕に補助金を交付した。</p> <p>空き家等活用コミュニティ推進事業助成金は、令和2年度同様5団体（けやき台二丁目町内会ほか）に交付した。</p> <p>地域活動のための施設等使用料助成金は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域活動を控える団体が多く、令和3年度も3団体への交付と少ない状況であった。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
自治公民館建設補助事業の補助金の額（千円）	631.00	0.00	0.00	4,452.00	3,813.00	2,530.00	5,000.00
自治公民館建設補助事業の補助金の交付件数（件）	3.00	0.00	0.00	8.00	8.00	3.00	10.00
成果の動向（→その理由）							
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	<p>自治公民館建設補助事業は、自治会・町内会等からの申請に基づくものであるため、成果は横ばいである。空き家等活用コミュニティ推進事業助成金は、令和2年度同様に5団体が引き続き活用したため、成果は横ばいである。地域活動のための施設等使用料助成金は、令和2年度は4団体の使用があったが、令和3年度は3団体と減少したが成果としては概ね横ばいである。</p>						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>自治公民館建設補助事業の件数は、各自治公民館の老朽化により増加傾向にある。空き家等活用コミュニティ推進事業助成金及び地域活動のための施設等使用料助成金は、コロナ禍の令和2年度から開始したため、活用が大きくは伸びなかったが、新型コロナウイルス感染症が収束し、コミュニティ活動が再開すれば、拡大傾向になることが予想される。</p>					

コストの推移						
項目		R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込
事業費	計	10,720	9,519	7,672	10,867	11,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	10,720	9,519	7,672	10,867	11,000
正職員人工数（時間数）		157.00	265.00	258.00	0.00	0.00
正職員人件費		644	1,073	998	0	0
トータルコスト		11,364	10,592	8,670	10,867	11,000

令和 3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	シェアハウス事業	担当課	企画課	
総合計画	政策	みんなで築くまち	計画期間	平成28年度～
	施策	地域コミュニティの充実	種別	任意的事務
	基本事業	コミュニティ活動の活性化と環境づくり	市民協働	その他
予算科目コード	01-020107-18 補助	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>高齢化が進む地域に学生を呼び込み、地域活動に参画することにより地域コミュニティの活性化を図るための事業として、平成28年度から地方創生推進交付金を活用して実施した。令和元年度からは、市単独事業として継続している。</p>	<p>高齢化が進んでいる地区（みずき野地区及び北守谷地区）に生じている空き家を市が借り上げ、守谷市外に住んでいる学生を対象に、地域活動や市事業への参加を条件として無償で住ませる。                  学生、自治会・町内会やまちづくり協議会、市との連携により、地区が目指すまちづくりに向けた活動を行う。                  市が間に入ることで、小中学校等とのコラボ企画や市事業へ参加を可能にし、幅広い交流を図る。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>まちづくりに意欲的な学生を取り込み、地域活動等への参加を促進することにより、活力のある地域づくりにつなげるとともに、活動を通じて地域への愛着を持ってもらい、「第2のふるさと」として守谷市への将来的な移住につなげることにより、人口減少対策への相乗効果も期待できる。また、守谷市出身ではない若者や、異世代が同じ地区で生活し、活動をともにすることにより、互いに新たな気づきを得ることができる。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民主体のコミュニティ活動を行いやすくする活動基盤を整える。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度を取組（評価、課題への対応）
<p>・新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域活動が中止・縮小となり、シェアハウス学生の活動のあり方について検討が必要となった。</p>	<p>・秘書課の市制施行20周年記念事業への協力や落ち葉で焼き芋作り、部活動指導サポート、町内会との協働によるスポーツ雪合戦など、多岐に渡る活動を実施。その他、みずき野地区の中高生との座談会を企画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止になるイベントが多く、計画どおりの活動ができなかった。</p> <p>・特に大学1、2年生においては、学生生活と地域活動との両立が難しく、令和3年度末には入居学生の退去があった。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
当該地区に転入した学生（卒業生含む）の数（人）	8.00	9.00	8.00	12.00	14.00	12.00	18.00
町内会行事等における学生の活動時間（h）	0.00	0.00	0.00	1,102.00	1,985.00	1,279.00	2,160.00
成果の動向（→その理由）							
<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動が減少したが、学生発案の企画が増えており、計画段階で実施に至らなかったものもあったが、今後、新型コロナウイルス感染症が収束に向かえば、更なる飛躍の可能性はある。</p>						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>・従来の地域活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が難しくなっている。そのような中、学生による差はあるものの、活発になってきた学生発案の企画をとおして、今までにない地域活性化を推進する。</p> <p>・入居学生を継続して確保し、地域活性化の成果を上げられないならば、事業のあり方を見直す。</p>					

コストの推移						
項目	R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込	
事業費	計	5,004	5,177	5,005	4,548	3,468
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	4,802	3,527	5,005	4,548	3,468
	一般財源	202	1,650	0	0	0
正職員人工数（時間数）	602.00	863.00	500.00	0.00	0.00	
正職員人件費	2,470	3,493	1,935	0	0	
トータルコスト	7,474	8,670	6,940	4,548	3,468	